

令和8年度 寺家小学校アクションプラン（学力向上）：知	
現状	各教科の学習において、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、読解力・対話力の育成に取り組んできた。その結果、内容を理解する力や自分の考えを伝える力は向上し、話し合い活動への抵抗感も減少してきた。 一方で、対話が意見を伝え合う段階にとどまり、考えを深め合うまでには至っていない場面が見られた。また、振り返りにおいても、自分の学びを十分に見つめ直し、次に生かすまでには至っていないことが課題である。
今年度の達成目標	- 自分の考えをグループや全体の話合いで伝えることが「よくできた」「できた」と答える子供 70% - 学習したことや考えたことを振り返り、自分の考えを見直したり深めたりすることが「よくできた」「できた」と答える子供 75%
方策	- 聞く・話す力を中心に、対話に重点を置いて、単元構想や手立てを工夫する。 - 深い学び合いを生むための掲示（ハンドサイン、伝え方の型等）の活用 - 学習の振り返りアンケートを作成し、学期ごとに自己を振り返る。 - 対話後に自分の考えを見直す「再思考」の時間を授業の中に位置付ける。 - 振り返りの視点（考えの変容・根拠・他者との関わり）を明確にし、発達段階に応じた振り返りを行う。 - 教師の発問や切り返しを工夫し、考えを揺さぶることで、対話が深まりにつながるようにする。

令和8年度 寺家小学校アクションプラン（児童活動）：徳	
現状	昨年度より言葉遣いに重点を置いて、様々な取組を行ってきた。学期末の自己評価の高まりは見られたものの、個々で見ると自分の普段の言葉遣いについて振り返ることができていない児童が見られ、より改善する方法が必要である。また、年度始まりから意識して学校全体で取り組むことが必要である。
今年度の達成目標	相手を思いやり、気持ちをコントロールした言葉遣いについて、自分が立てた目当てを達成できる子供 70%
方策	- 年度初めに、1年間で取り組む課題「正しい言葉遣い」「思いやりのある言葉」について、共通理解する。 - 各学級において、道徳科や特別活動の授業で「気持ちのよい言葉とはどんな言葉か」を明確にし、具体的な場面で考える機会を設定する。 - 全校で言葉遣いについて共通した取組や活動を行い、よい言葉を可視化する工夫をする。 - 教師が日常の中でよい言葉遣いのモデルを示し、子供のよい言動を認める。 - 個人の目当てカードに言葉遣いの項目をつくり、自分の目当てを立て、毎月振り返る時間を取る。学期末には、振り返りを文章で表し、次の学期の目当て立てに役立てる。

令和8年度 寺家小学校アクションプラン（健康増進）：体	
現状	力向上の一環として昨年より縄跳びに力を入れてきた。学年毎、クラス毎に行ってきたが、全校で目当てをもって取り組むことで意欲が高まると考えた。
今年度の達成目標	大縄跳び（8の字とび）を2分間で跳ぶ回数を年度当初の150%にする。（通り抜けも可。ただし、カウントしない。）
方策	- なわとびタイム（各学年週1回）を設け、運動委員会が中心になり、活動と呼びかける。 5月中に一度回数を報告する。その後、体育の時間等を使って練習する。学期末に縄跳び週間を設け、クラスで行い、記録を報告する。 - なわとびが苦手な児童に配慮する。